

2017年1月15日

福音書からのメッセージ

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。（マタイによる福音書3章16節）

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」。洗礼者ヨハネは、自分の元に来られるイエス様を見て、こう言いました。この罪とはいったい何なのでしょう。わたしは初めて教会に行ったとき、「あなたは罪人だ」と言う牧師の言葉に少し恐ろしくなったのを覚えています。しかしわたしたちは罪という刑法で禁じられていることを想像してしまいましたが、聖書のいう罪の意味は、それだけではありません。

罪とは人間の根っこにあるもので、的外れという意味も持ちます。たとえばダーツをするときに、的に当てようと思ったら身体も心も的に向けます。でも的外れなのです。あさっての方向を向いてしまっているのです。人間と神さまとの関係が、的外れな状態を罪と言います。神さまの方を向かずに、神さまから離れた方向に歩いていくこと、それが聖書のいう罪なのです。

イエス様は、罪の中にいるわたしたちのところに来てくださいました。神さまに背き、自分勝手に生きているわたしたちの罪を取り除くために、イエス様は来てくださいました。神の小羊として来られたのです。

イエス様はわたしたちの病を担い。わたしたちの痛みを負い、わたしたちの背きのために刺し貫かれ、わたしたちの咎のために打ち砕かれました。わたしたちは道を誤り、それぞれの方角に向かってしまいます。神さまからどんどん離れていきます。その



罪を負うために、イエス様はわたしたちの元に来られました。

イエス様に出会う前のわたしたちは、寒さの中、体を硬直させたような状態かもしれません。体を動かそうにも動かない。神さまの方に向き直ろうとしても、身を起こすことすらできない。周りの景色を見ることもできず、どこに神さまはいるのかとうなだれてしまう。

神さまはそのようなわたしたちの姿をみて、放っておかれはしませんでした。神の小羊を遣わされたのです。その小羊とは、神さまの独り子でありながらわたしたちの身代わりとなり、十字架へと向かうイエス様です。その独り子をわたしたちに与えられたこと、それが神さまの愛なのです。

この神さまの愛を受け入れたときに、わたしたちの冷え切った心は温められます。カチコチだった体は自由を取り戻します。今まで気づかなかった神さまの姿に気づかされます。そしてもう一度、わたしたちを神さまの方へと向き直してくださるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

Tel/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>